

「生きるってどういうこと ～新しい自分に歩み出す～」

高木 亮道

「今年もわずかとなりました。大晦日、除夜の鐘^{じよや}をつきながら、過ぎし自分を深く静かに振り返り、新しい自分に歩み出したいものです。そして、本堂ご本尊の前にて厳粛にお勤めをし、みなさん一緒に新しい年を迎えたいものです。」と、私がお預りしているお寺の通信（新聞）で、「除夜会並びに修正会」の案内を今年もさせていただきました。

私たちは、日ごろ「都合のいいことが好きで、都合の悪いことは嫌い」、言い換えれば「自分させよければいいという思いで生活しています。このことが家族はもちろんのこと、社会も壊していくということになりましょう。私たちが悩み苦しみ、傷つけ合っていることから、平等に救いたいという阿弥陀仏の本願のはたらきが、「称名念仏」としてあきらかにされてきた歴史があります。「ああでもない、こうでもない」、「ああすれば得か、こうすれば得か」という煩惱を中心として生きることの痛ましさを教えられ、そしてどこを向いて生きるのかということを一歩一歩教えられていく生活が浄土往生ということでありましょう。念仏を申すとは、私たちに「どこを向いて生きるのか、何を大事に生きるのか」という呼び掛けに、ハッと思い当たり、「本当におっしゃる通りでした」と気づかされ、目覚めさせられることです。

「人生は切ない。切ないからこそ、何か『うわっ』と感じる瞬間がある」。東日本大震災で被災した少年の写真を台本に貼り、自らを奮^{ふる}い立たせ、切なさを抱えて生きる人の思いを、演技に込めた故高倉健さんの生きざまに心打たれるではありませんか。